

心 理 学

1 年次 前 期

2 単位 30 時間

担当

【授業目標】

心理学は人の行動を理解するための基礎的な科目です。医療の現場では様々な患者さんに出会い、最良の医療を提供しなければなりません。そのためには、患者さんを全人格的に深く理解する必要があります。ヒトの行動を考えるときの基本となる知能、性格、欲求、記憶、学習など心理学の基礎について学び、その応用として、臨床の現場で遭遇する精神疾患や高齢者、児童などについて深く理解できるようになることを目標にします。

【授業内容】

1～3回 知能・記憶・学習とその不全 知能の定義、知能の構造、知能の測定、記憶の定義、記憶の種類、忘却と記憶の変容、学習の種類などの基本的な事項と知能、記憶、学習の障害とその臨床像について

4～5回 性格とその障害 性格の定義、性格の形成、性格の測定などの基本的な事項と性格の病気（性格障害や加齢による性格の変化など）について

6～8回 欲求と欲求不満・葛藤と行動 欲求の様々な種類、欲求が満たされないときの行動のタイプなどの基本的な事項と、現在問題となっている虐待や自殺の問題について触れる

9～12回 精神機能・ストレスとその不全 精神疾患の分類、精神疾患の種類、各種精神疾患の臨床像、精神症状について

13～14回 発達と老化 発達の原理、認識機能の発達、言語の獲得、老化の原則、老化に伴う精神機能の、身体機能の変化、老年期の発達課題等の基本的な事項と認知症の臨床像について

15回 授業の振り返り 定期試験に向けての勉強、対策など

【教科書】

特に指定しません。講義ノートを事前に配布します。毎時間講義ノートに書き込みをしてもらうので必ず講義ノートは持参して下さい。

【参考図書】

漸次紹介します。

【授業方法】

講義形式

【成績評価法】

定期試験の成績を評価の主とします。授業態度及び出席、小テストなども評価に入れます。定期試験 60%、授業態度・小テスト 40%。

【学生へのメッセージ】

これから出会う患者さんのためにもぜひ熱心に受講して下さい。授業態度の悪い学生さんには遠慮なく注意を与えます。とにかく、私語は慎んで下さい。

生 物 学

1年次 前期
2単位 30時間
担当

【授業目標】

いくつかの基本的な生命現象のしくみについて、理解を深める。

【授業内容】

遺伝のしくみ：生殖と遺伝、遺伝の基本原則、遺伝子、遺伝子と疾患、遺伝子技術と社会、他 恒常性のしくみ：神経系…自律神経による調節
内分泌系…化学物質（ホルモン）による調節
免疫系…異物を識別して排除するシステム、免疫と疾患・医療、他

【教科書】

使用しない。（プリントを配布する）

【参考図書】

特に指定しない。自分で読みやすい、解りやすいと思う書物を読めばよい。

【授業方法】

主として、講義

【成績評価法】

期末に行う筆記テスト

【学生へのメッセージ】

頭も身体も、使えば使うほどその働きは向上します。

逆に使わなければ低下していきます。

様々な事柄に目を向け、専門知識だけでなくいろいろな知識を身に付けようと努めて下さい。

教 育 学

1 年次 前 期

1 単位 1 5 時間

担当

【授業目標】

教育の目標と方法

人間形成としての教育の意義と課題を明らかにし、今日の教育・学習の現状をふまえて、教育の方法を論ずる。

【授業内容】

1. 教育の意義と目標
2. 教育をとりまく現状
3. 教育の制度と教育法規
4. 教育内容と方法
5. 教授・学習過程の心理
6. 教育評価
7. 今日の技術教育と専門学校教育
8. 青年・成人・高齢者の教育

【教科書】

「現代社会における人間と教育」 曾我雅比兒、皿田琢司 編著 大学教育出版 2012. 4

【参考図書】

「専修学校教育総論」 北樹出版 2006

【授業方法】

講義を中心とするが、視聴覚教材を用いた学習やグループ討議も行う。

【成績評価法】

小テスト、小レポートを加味し、期末テストで評価する。

【学生へのメッセージ】

自ら考え、発言するようにして欲しい。受身的な学習ではなく、積極的に「教育問題」「学習の進め方」などに関心をもって欲しい。

物 理 学

1 年次 前 期

1 単位 1 5 時間

担当

【授業目標】

高校程度で習う物理の基本的理解

【授業内容】

高校程度の物理学、特にこの原理やモーメント、エネルギー保存則を中心に力学を学ぶ。(授業進捗により、熱力学や波動についても行う)

【教科書】

時政孝行(監修) 桑子研(著) まるわかり! 基礎物理. 南山堂 (ISBN : 978-4-525-05431-1)

【参考図書】

特に指定なし、必要に応じて講義中に資料を配布。

【授業方法】

講義 問題演習

【成績評価法】

日常点 期末テスト

【学生へのメッセージ】

公式を丸暗記するのではなく、物理現象の基本を押さえるように心掛けて欲しい。基本を押さえて応用力をつければ物理はもっと面白くなる。

力学を学ぶことで、筋力の働きや看護動作、人体の物理特性のエビデンスを得て欲しい。

社会福祉学

1年次 前期
2単位 30時間
担当

【授業目標】

社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の理念や仕組みを学び、現代の社会福祉を考察していく。

【授業内容】

- 1回 社会福祉とは
- 2回 社会福祉の歴史
- 3回 社会保障
- 4回 障害者福祉（ノーマライゼーション、IL運動など）
- 5回 グループワーク
- 7回 グループワーク
- 8回 グループワーク
- 9回 プレゼンテーション
- 10回 プレゼンテーション
- 11回 障害者福祉
- 12回 高齢者福祉
- 13回 高齢者福祉
- 14回 地域福祉
- 15回 医療福祉

【教科書】

資料を配布します。

【参考図書】

適宜紹介します。

【授業方法】

講義、グループワーク

【成績評価】

定期試験、レポート、グループワーク、出席、授業態度

【学生へのメッセージ】

社会福祉とはどのような視点を持っているのか考え、社会福祉とリハビリテーションの共通性や、福祉職との連携の必要性について理解できるようになりましょう。

英 語

1年次 前期

2単位 30時間

担当

【授業目標】

- ・ 基本的な英文法能力を身につける。
- ・ 英語は「国際交流言語」であるという認識を深めコミュニケーションのツールとしてどのように使用するかを学ぶ。

【授業内容】

- ・ 基礎になる英文法を習得する。
- ・ ある程度の長文を読解でき、さらに音読を繰り返し発音を矯正する。
- ・ グループワーク、ペアワークを通して会話の楽しさを学ぶ。

【教科書】

「Passport 2 (Oxford University Press)」

「英検 3 級 文で覚える単熟語 (旺文社)」

「英検 3 級 予想問題ドリル 7 日間完成 (旺文社)」

【参考図書】

なし

【授業方法】

講義 グループワーク その他

【成績評価法】

出席 期末テスト (筆記) 授業態度

【学生へのメッセージ】

- ・ 基本的な文法をマスターして下さい。
- ・ 失敗を恐れず積極的に発話し、英会話、そして英語そのものを楽しんで下さい。
- ・ 英語を通して日本のみならず世界のあらゆる出来事に興味を持って下さるとうれいしいです。

医学英語

1年次 前期
1単位 1.5時間
担当

【授業目標】

理学療法に関する医学英語を習得し、動作の英語表現の学習や英文翻訳を通じて、英語に慣れることを目的とする。

【授業内容】

- 1回 断面と運動方向
- 2回 全身の骨の名称、上肢の骨、骨部位
- 3回 下肢の骨、骨部位
- 4回 肩甲骨周囲と体幹の筋
- 5回 上肢の筋
- 6回 下肢の筋
- 7回 疾患の医学英語
- 8回 英語文献について 翻訳してみましょう

【教科書】

特に指定しません。資料を配布します。

【参考図書】

解剖学の教科書を毎回持参してください。

【授業方法】

講義、グループワーク

【成績評価】

小テスト、定期試験、授業態度、出席

【学生へのメッセージ】

カルテや文献を読むために医学英語が必要になります。初めて触れる英単語ばかりですが、解剖学と合わせて覚えましょう。

国語

1年次 前期

1単位 15時間

担当

【授業目標】

私たちは主に言語を使って情報を得、言語を使って他人に情報や意思、感情を伝えています。しかし、言語は他者とのコミュニケーションツールとしてあるだけではありません。私たちは言語で思考し、想像し、感情を豊かにしています。言語能力を高めることが、新しい世界を開くこと、他者との意思疎通を図ること、自分の内なる言語に耳を傾けることと結びつくことを願っています。国語の授業を通じて、言語表現が開く可能性、おもしろさに気づいてもらうことが、この授業の目標です。

【授業内容】

日本語表現の様々なことについて紹介しながら、自己表現に役立つような内容の授業になればと考えています。具体的には以下のような内容になる予定です。

1. 詩の楽しさを味わう
2. 絵本の世界を楽しむ
3. 俳句、川柳のおもしろさについて
4. ことばあそびの色々と言語
5. 書きたいことを見つけ作文や詩などを書き、鑑賞する

【教科書・参考図書】

なし

【授業方法】

講義

【成績評価法】

1. 出席状況
2. 提出物

【学生へのメッセージ】

授業で取り扱うものの中で少しでも心に響くことがあって、国語もおもしろいとか、世の中には今まで知らなかったおもしろいことがあるのだなと思って下されば嬉しいです。

解剖学

1年次 前期

3単位 90時間

担当

【授業目的】

()

人体の構造を理解するための必須な知識として、系統解剖学の基礎を習得させる。
特に、骨格系・筋系・神経系に重点を置く。

()

人に直接触れて療法を行うPT・OTにとって人体の正確で深い理解は必須である。
組織学、循環器系、および骨格系を中心にして人体構造の正確な理解の獲得を目指す。また、人体構造の精緻さや危うさも実感させる。

()

リハビリテーションの対象疾患は多岐にわたり、その障害構造は複雑・高度化していることから、人体の構造を正確に理解し、その機能を深く理解する必要性は高い。
骨格筋に重きを置きながら、臨床に生かしていける基礎知識を習得する。

【授業内容】

()

1. 神経系（中枢神経系、末梢神経系）
2. 感覚器（外皮、視覚器、平衡・聴覚器、嗅覚器、味覚器）

()

1. 解剖学用語と組織学
2. 骨学総論
3. 骨学各論（頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢）
4. 循環器系（心臓、動脈系、静脈系、リンパ系）
5. 内臓学（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）

()

1. 関節と靭帯の総論と各論
2. 筋系の総論

【教科書】

()

「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」(医学書院 野村 巖 編集)

【参考図書】

()

1. 「学生板 ネット解剖学図譜」(南江堂 相磯 貞和 訳)
2. 「骨学実習の手びき」(南山堂 寺田 春水、藤田 恒夫 著)
3. 「骨格筋ハンドブック」(南江堂 野村 巖、藤川 考満 訳)
4. 「神経解剖カラーテキスト」(医学書院 野村 巖、水野 昇 訳)
5. 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」(医学書院 坂井建雄、松村讓児著)
6. 「カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖」(医歯薬出版 竹内義亨、田口大輔 著)
7. 「イラスト解剖学」(中外医学社 松村讓児 著) 第3版
8. 「みえる人体ー構造・機能・病態」(南江堂 佐藤達夫、松尾理 監訳)

【授業方法】

()

講義、パワーポイント

【成績評価法】

()

出席、期末テスト、小テスト(筆記)、授業中の意欲・態度

【学生へのメッセージ】

()

人体の知識なしに生きている人体を取扱うことは許されてはならないと思います。解剖学の知識は人体を知るための基礎中の基礎となる知識です。基礎的知識の習得には常に粘り強い地道な努力が必要です。頑張ってください。

()

人体構造の名称や特徴を憶えることを厭うことなかれ。また、記憶する際に視診と触診をしっかりと行い、なぜその様な構造なのかや名称の由来などを考えなさい。

()

PT・OTとして、人の身体に触れながら治療展開していく上での第一歩となる学問です。そして、将来的にもPT・OTである以上、常に傍にある学問です。

人体の構造は複雑かつ緻密なものであるがゆえに、難しくもあり興味深いものでもあります。ともに人体の不思議を解明していきましょう。

生理学 I

1年次 前期
2単位 60時間
担当

【授業目標】

医療に携わるものとして必要な人体機能についての専門的知識を習得する。本講義では、神経系全般の構造と機能を中心に講義を行う。リハビリテーションに深く関わる神経系について包括的に学ぶ。

【授業内容】

1. 生理学概要
2. 神経系
3. 筋の収縮
4. 末梢神経
5. 中枢神経系
6. 感覚
7. 血液

実習1：腱反射

実習2：筋電図

実習3：感覚

【教科書】

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 岡田 隆夫／長岡 正範 医学書院

【参考図書】

標準生理学 小澤 滯司／福田 康一郎 医学書院

ガイドン生理学 御手洗 玄洋 エルゼビア・ジャパン

ギャノン生理学 岡田 泰伸 丸善出版

【授業方法】

講義、実験供覧を中心に適宜教材を利用する。

【成績評価法】

定期試験、小テスト、出席、レポート

【学生へのメッセージ】

予習復習が大切です。毎回の講義で確実に理解していきましょう。質問は随時受け付けます。

身体構造論

1年次 前期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

骨・関節・筋・神経を中心とする理学療法士に必要な人体の構造を列挙し、各名称を述べられる。

【授業内容】

1. 全身の骨の外観を知る。体幹の骨と各部位の名称を学習する。
2. 体幹の関節・靭帯の名称と構造を学習する。
3. 体幹の筋の名称と起始・停止・走行を学習する。
4. 体幹の筋の走行と作用を学習する。
5. 体幹の神経の名称と走行を学習する。
骨のランドマークと体表の筋肉を触診する。
6. 上肢の骨と各部位の名称を学習する。
7. 上肢の関節・靭帯の名称と構造を学習する。
8. 上肢の筋の名称と起始・停止・走行を学習する。
9. 上肢の筋の走行と作用を学習する。
10. 上肢の神経の名称と走行を学習する。
骨のランドマークと体表の筋肉を触診する。
11. 下肢の骨と各部位の名称を学習する。
12. 下肢の関節・靭帯の名称と構造を学習する。
13. 下肢の筋の名称と起始・停止・走行を学習する。
14. 下肢の筋の走行と作用を学習する。
15. 下肢の神経の名称と作用を学習する。
骨のランドマークと体表の筋肉を触診する。

【教科書】

坂井建雄 監訳 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 医学書院

【授業方法】

講義 デッサン グループワーク

【成績評価法】

授業態度 期末テスト

【学生へのメッセージ】

人体の構造を知るための解剖学のうち、骨・関節・筋・神経など理学療法士に大切な運動器系の基礎を学習します。絵をかいたり、体を実際に触ったりしながら解剖学の知識を深めるきっかけにしてください。

人間発達学

1年次 前期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

乳幼児期から老年期に至るまで、様々な発達段階にある人々の支援に関わる専門家として、各々の発達段階における精神の発達の特徴を理解することは重要である。本講義では、生涯発達という視点から、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達の特徴について学習し、人間の発達についての理解を促す。また、各発達段階における心の問題についても講述する。

【授業内容】

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 発達とは | 9. 児童期の発達の特徴 (2) |
| 2. 発達段階について | 10. 青年期の発達の特徴 (1) |
| 3. 発達理論について | 11. 青年期の発達の特徴 (2) |
| 4. 乳児期の発達の特徴 (1) | 12. 成人期の発達の特徴 (1) |
| 5. 乳児期の発達の特徴 (2) | 13. 成人期の発達の特徴 (2) |
| 6. 幼児期の発達の特徴 (1) | 14. 老年期の発達の特徴 (1) |
| 7. 幼児期の発達の特徴 (2) | 15. 老年期の発達の特徴 (2) |
| 8. 児童期の発達の特徴 (1) | |

【教科書】

上田 礼子：生涯人間発達学：三輪書店

【参考図書】

適宜授業時に紹介する

【授業方法】

講義

【成績評価法】

定期試験（筆記試験）の結果によって評価する

精神医学

1年次 前期
1単位 1.5時間
担当

【授業目標】

主な精神疾患について、症状・経過・診断・治療など基本的要素を学習していきます。

【授業内容】

- 1回 総論
- 2回 統合失調症
- 3回 気分障害
- 4回 てんかん、神経症性障害
- 5回 認知症
- 6回 知的障害 自閉症スペクトラム障害 注意欠陥多動性障害
- 7回 神経症性障害 身体表現性障害 摂食障害
- 8回 中毒

【教科書】

講義ノートを配布します。

【参考図書】

漸次紹介します。

【授業方法】

講義形式

【成績評価】

定期試験

【学生へのメッセージ】

目に見えない“こころ”を扱った精神医学はイメージすることが難しいと思いますが、授業の中で基本的なところを習得できるようにしていきます。

リハビリテーション概論

1年次 前期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

リハビリテーション概論では、障害を様々な観点から理解し、リハビリテーションの目標である「最高の人生の質(Quality of life)の獲得」のために、どのようなアプローチが必要かを考え、その手段の概要を理解することを目標とする。

【授業内容】

- 1回 リハビリテーションの理念と定義、リハビリテーションの歴史と思想の背景
- 2回 リハビリテーションとは何か リハビリテーションにおけるチーム医療
各専門職種役割
- 3回 リハビリテーションの手段・進め方
- 4回 障害の受容
- 5回 QOLとADLの関係
- 6回 標準予防策 リスク管理
- 7回 車いす介助、リフト体験等
- 8～10回 さまざまな疾患の理解 中枢神経系疾患 骨関節疾患
- 11回 実習オリエンテーション
- 12～13回 病院見学実習
- 14回 病院見学実習 グループワーク
- 15回 病院見学実習総括 グループワーク発表会

【教科書】

奈良 勲：理学療法概論(第6版)．医歯薬出版
才藤栄一：PT・OTのための臨床技能とOSCE．金原出版

【参考図書】

中村隆一：入門リハビリテーション概論 第6版．医歯薬出版
椿原彰夫：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論．診断と治療社

【授業方法】

講義 スライド 病院見学実習 グループワーク

【成績評価】

小テスト 期末テスト レポート 授業態度 出席状況

【学生へのメッセージ】

理学療法に至る入口の学問です。広く知識を習得してください。

公衆衛生学

1年次 後期
1単位 15時間
担当

【授業目標】

理学療法士、作業療法士として必要な公衆衛生・地域保健に関する知識を習得する。

【授業内容】

公衆衛生・地域保健全般。中でも老人保健・生活習慣病や「健康」についてを重点に。

【教科書】

新版看護学全書9 「公衆衛生学」 メディカルフレンド社

【授業方法】

講義を中心とする。

【成績評価法】

ペーパーテストを基準とする。

レポート提出もある。

【学生へのメッセージ】

個々の対象者（患者）だけを見るのではなく、その人の家庭環境、生活環境にも配慮できる力を養ってほしい。

解剖学実習

1年次 後期

2単位 90時間

担当

【授業目的】

()

人体の構造を理解するための必須な知識として、系統解剖学の基礎を習得させる。
特に、骨格系・筋系・神経系に重点を置く。

()

人に直接触れて療法を行うPT・OTにとって人体の正確で深い理解は必須である。
内臓学を中心にして人体構造の正確な理解の獲得を目指す。また、人体構造の精緻さや危うさも実感させる。

()

リハビリテーションの対象疾患は多岐にわたり、その障害構造は複雑・高度化していることから、人体の構造を正確に理解し、その機能を深く理解する必要性は高い。
骨格の中でも関節構造に重きを置きながら、臨床に活かしてける基礎知識を習得する。

【授業内容】

()

局所解剖学（要説：骨格・筋・神経を中心に）

()

1. 「解剖学」で積み残した内臓学の部分
2. 人体の発生

()

1. 関節と靭帯の総論
2. 関節と靭帯の各論（頭蓋・脊柱・胸郭）
3. 関節と靭帯の各論（上肢帯・自由上肢骨・手）
4. 関節と靭帯の各論（下肢帯・自由下肢骨・足）
5. 人体解剖実習（触察法など）

【教科書】

()

「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」(医学書院 野村 巖 編集)

【参考図書】

()

1. 「学生板 ネット解剖学図譜」(南江堂 相磯 貞和 訳)
2. 「骨学実習の手びき」(南山堂 寺田 春水、藤田 恒夫 著)
3. 「骨格筋ハンドブック」(南江堂 野村 巖、藤川 考満 訳)
4. 「神経解剖カラーテキスト」(医学書院 野村 巖、水野 昇 訳)
5. 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」(医学書院 坂井建雄、松村讓児著)
6. 「カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖」(医歯薬出版 竹内義亨、田口大輔 著)
7. 「イラスト解剖学」(中外医学社 松村讓児 著)第3版
8. 「みえる人体ー構造・機能・病態」(南江堂 佐藤達夫、松尾理 監訳)

【授業方法】

()

講義、パワーポイント

【成績評価法】

()

出席、期末テスト、小テスト(筆記)、授業中の意欲・態度

【学生へのメッセージ】

()

人体の知識なしに生きている人体を取扱うことは許されてはならないと思います。解剖学の知識は人体を知るための基礎中の基礎となる知識です。基礎的知識の習得には常に粘り強い地道な努力が必要です。頑張ってください。

()

人体構造の名称や特徴を憶えることを厭うことなかれ。人体構造を記憶する際に、なぜその様な構造なのかや名称の由来などを考えなさい。

また、可能な限り学ぶ人体構造を自らの体で確認すること。

()

PT・OTとして、人の身体にふれながら治療展開していく上での第一歩となる学問です。そして、将来的にもPT・OTである以上、常にそばにある学問です。

人体の構造は複雑かつ緻密なものであるがゆえに、難しくもあり興味深いものでもあります。ともに人体の不思議を解明していきましょう。

生理学Ⅱ

1年次 後期
2単位 60時間
担当

【授業目標】

医療に携わるものとして必要な人体機能についての専門的知識を習得する。本講義では、血液、心臓、循環、呼吸、内分泌、消化と吸収、腎機能、生殖など各機能系の仕組みとその働きをコントロールする制御機構について学ぶ。チーム医療の一員として必要な生理学的要素を身につけることを目標とする。

【授業内容】

1. 循環
2. 呼吸
3. 運動生理
4. 消化と吸収
5. 腎臓と排泄
6. 酸-塩基平衡
7. 内分泌
8. 性と生殖
9. 代謝と体温

実習1：心電図（人体）

実習2：血圧（人体）

実習3：呼吸（人体）

【教科書】

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 岡田 隆夫／長岡 正範 医学書院

【参考図書】

標準生理学 小澤 澗司／福田 康一郎 医学書院

ガイドン生理学 御手洗 玄洋 エルゼビア・ジャパン

ギャノン生理学 岡田 泰伸 丸善出版

【授業方法】

講義、実験供覧を中心に適宜教材を利用する。

【成績評価法】

定期試験、小テスト、出席、レポート

【学生へのメッセージ】

予習復習が大切です。毎回の講義で確実に理解していきましょう。
質問は随時受け付けます。

運 動 学 I

1年次 後 期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

四肢・体幹の解剖学を基本として、ヒトの運動を捉えていく上で必要不可欠な機能解剖、関節運動学などについて学ぶ。学生個人の解剖学的知識の不足を補填しつつ基本的な運動学について教授する。

【授業内容】

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 運動学概論 | 2. 上肢帯の構造と運動、機能 |
| 3. 肩関節の構造と運動 | 4. 肩関節の運動と機能 |
| 5. 肘関節と前腕の構造と運動、機能 | 6. 手関節と手部の構造と運動 |
| 7. 手関節と手部の機能 | 8. 下肢帯・股関節の構造と運動 |
| 9. 下肢帯・股関節の運動と機能 | 10. 下肢帯・股関節の運動と機能 |
| 11. 膝関節・下腿の構造と運動 | 12. 膝関節・下腿の運動と機能 |
| 13. 足関節と足部の構造と運動、機能 | 14. 脊柱の構造と運動 |
| 15. 脊柱の運動と機能 | |

【教科書】

弓岡光徳・他：エッセンシャルキネシオロジー，南江堂． 学内資料

【参考図書】

中村隆一・他：基礎運動学 第6版．医歯薬出版．

Donald A. Neumann：筋骨格系のキネシオロジー．嶋田智明・他（監訳），医歯薬出版．

荻島秀男（訳）：運動器の機能解剖．医歯薬出版．

荻島秀男・他（監訳）：カパンディ関節の生理学．医歯薬出版．

【授業方法】

講義

【成績評価法】

出席状況、中間試験（上肢終了後）、定期試験

【学生へのメッセージ】

当講義は、理学療法を学ぶ上で重要な科目であり、専門分野の科目の基礎となるものです。また、解剖学の知識を要するので、しっかり復習しておくようにして下さい。骨格モデルあるいは学生自身の身体を用いて、頭と身体をともに使っていくことを意識して授業を行います。

身体機能論

1年次 後期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

理学療法士に必要な身体機能についての知識を整理し、ほかの専門基礎科目、専門科目の基盤をつくる。とりわけ生理学をベースにして、人の運動を考える上で重要とされる運動器系、神経系の構造および機能について学び、解剖学、生理学、運動学の基礎知識を中心に教授する。

【授業内容】

- | | |
|--------|------------|
| 1～6回 | 運動器系の構造・機能 |
| 7～10回 | 神経系の構造・機能 |
| 11、12回 | 感覚器の構造・機能 |
| 13～15回 | 運動の中樞神経機構 |

【教科書】

配布資料

奈良勲（監修）標準理学療法学 運動療法学総論. 医学書院

【参考図書】

中村隆一・他：基礎運動学. 医歯薬出版

【授業方法】

講義

【成績評価法】

出席態度、期末試験結果を総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

理学療法士に必要な生理学、解剖学を中心に学習する科目です。今後の学習の基礎となる教科ですので、内容理解に努めるようにしてください。

運動学演習 I

1年次 後 期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

学生自身の身体で触診を行うことにより、四肢・体幹の機能解剖についての理解を深める。当講義は、運動学 I（四肢・体幹の運動学）と同時に進行していく。

【授業内容】

上・下肢，体幹における骨，関節，軟部組織および骨格筋の触診

- | | | | |
|--------|-----------|---------|------------|
| 1. | 触診概論 | 2. | 上肢帯の触診 |
| 3・4. | 肩関節の触診 | 5. | 肘関節・前腕の触診 |
| 6・7. | 手関節と手部の触診 | 8・9・10. | 下肢帯・股関節の触診 |
| 11・12. | 膝関節・下腿の触診 | 13. | 足関節と足部の触診 |
| 14・15. | 脊柱の触診 | | |

【教科書】

河上敬介：骨格筋の形と触察法改訂第2版．大峰閣

【参考図書】

野村 巖(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学．医学書院．

佐藤達夫・他：リハビリテーション解剖アトラス．医歯薬出版．

相磯貞和(訳)：ネッター解剖アトラス．南江堂．

越智淳三(訳)：解剖学アトラス．文光堂．

竹井 仁：触診機能解剖カラーアトラス上・下．文光堂

野島元雄監(訳)：図解 四肢と脊椎の診かた．医歯薬出版．

【授業方法】

講義・実技

【成績評価法】

実技試験（口頭試問を含む）、小テスト

【学生へのメッセージ】

解剖学が基礎となりますので、講義の際には必ず解剖学のテキスト、参考書等を各自持参しておいて下さい。そして、三次元での人体構造を理解しながら触診していくように努力して下さい。なお、実技では、できるかぎり体表から直接触れることができる格好で 出席して下さい。

臨床心理学

1年次 後期

1単位 15時間

担当

【授業目標】

臨床心理とは何かということを考え、心と体、心と生活、心と対人関係のつながりを考察する。心理的問題のアセスメントと治療的アプローチについて学習する。

【授業内容】

1. 人間の心はどのように形成され、変容するか
2. 臨床心理学とは何か
3. 心理的問題の分類
4. 高齢者の心理的問題
5. 心理療法のすすめ方

【教科書】

松原達哉（編著）：カラー図解「臨床心理学」 ナツメ社 2010年

【参考図書】

倉光修：「臨床心理学」岩波書店 1995年

坂野雄二：「臨床心理学キーワード」有斐閣 2000年

【授業方法】

講義を中心に、ビデオ学習、実習、討論など行う。

【成績評価法】

学期末の試験と小テスト、レポート、実習課題を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

他人への思いや自分の気持ちを洞察する力をつけて下さい。

臨床医学

1年次 後期

1単位 15時間

担当

【授業目標】

医療関係の職に従事するものとして医療、医学に関わる基本的な考え方や知識、歴史を学ぶ。

【授業内容】

医療や医学に関わる歴史、知識、考え方等について基礎的な内容を講義する。

【教科書】

日野原重明：系統看護学講座 別巻① 医学概論、医学書院

【授業方法】

講義

【成績評価法】

筆記試験（レポート）予定、出席状況

救急援助法

1年次 後期
1単位 15時間
担当

【授業目標】

時と場所を選ばず発生する救急疾患や外傷に対し、医療に関わる一員として適切な初期救急対応が行える知識と技術を習得することができる。

また生命を脅かす病態の徴候を理解し、救命にスムーズに繋げることができる。

整形外科領域の病態や外傷への知識を深め、その初期対処法を理解することができる。

【授業内容】

1. 普通救命講習
2. 救急医療を必要とする疾患とその徴候
3. ショックや意識消失などの生体反応とその対応
4. 死に直結する疾病の病態とその徴候
5. 整形外科領域の病態と初期対応

【参考図書】

- ①系統看護学講座 別巻 救急看護学；山勢 博彰ほか 医学書院、2013
- ②図解救急ケア 2nd；監修 芦川和高 学研、2013
- ③内科レジデントマニュアル第7版 聖路加国際病院内科レジデント編 医学書院、2013

【授業方法】

講義

【成績評価法】

テスト（筆記） 出席状況 修業態度 普通救命講習

【学生へのメッセージ】

将来、理学療法や作業療法中に急変する患者さんに遭遇することは決して低いとは言えません。救急疾患を理解し、スムーズな救急医療との連携を患者家族に提供することも医療人の大切なスキルのひとつであると考えます。

リハビリテーション医学

1年次 後期
1単位 30時間
担当

専任教員

【授業目標】

リハビリテーション医学を通して、人の生活に関与する医療の基礎を学ぶ

【授業内容】

リハビリテーション医学の成り立ち、理念、障害学
廃用、末梢神経障害、痙縮・固縮
パーキンソン病、変性疾患
脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎
視覚障害、平衡・聴覚障害、摂食嚥下障害、高次脳機能障害
脳血管障害、頭部外傷
呼吸器疾患、心筋梗塞、生活習慣病
脊髄損傷、排尿障害、褥瘡、性機能
関節リウマチ
下肢切断・義足、上肢切断・義手
骨関節疾患、骨折、骨粗鬆症、頸肩腕痛、腰痛、スポーツ外傷、CRPS
老年症候群、発達障害
熱傷、悪性腫瘍
リハビリテーション心理、精神疾患

【教科書】

最新リハビリテーション医学

【授業方法】

講義 スライド

【成績評価法】

出席 テスト レポート

【学生へのメッセージ】

様々な疾病とリハビリテーションへの基礎的な理解を目指します。
幅広い学習が求められます。将来の臨床現場をイメージして学習をすすめます。

運動学 II

2年次 前期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

運動学分野のうち、バイオメカニクス、姿勢制御、歩行と走行、運動発達、運動学習についての基礎知識の習得を目標とします。

【授業内容】

- 1回 バイオメカニクスの基礎知識
滑車、ベクトル、時間、速度、加速度
- 2回 バイオメカニクスの基礎知識
関節モーメント
- 3回 バイオメカニクスの基礎知識
重心、仕事、運動連鎖など
- 4回 姿勢、動作分析
運動分析と動作分析、姿勢制御、運動連鎖、予測的姿勢制御、姿勢の発達、
座位・立位の姿勢制御
- 5回 歩行
歩行の基礎知識、走行の周期
- 6回 歩行
歩行時の床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、歩行時のエネルギー消
費、
歩行の神経生理学
- 7回 歩行
異常歩行
- 8回 運動生理
呼吸
- 9回 運動生理
循環
- 10回 運動生理
代謝
- 11回 運動学習
- 12回 運動学習
- 13回 運動発達

14回 運動発達

成長と発達、反射と反応、乳幼児期の正常運動発達、手の発達

15回 運動発達

知覚運動機能の発達、歩行と走行の発達歩行と走行

【教科書】

伊東元・他（編）：運動学，医学書院.

畠中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析，羊土社

奈良勲（監修）標準理学療法学 運動療法学総論. 医学書院

学内資料

【参考図書】

中村隆一・他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版.

土屋和夫（監），歩行分析研究会（編）：臨床歩行分析入門. 医歯薬出版. 1995.

リチャード・A・シュミット(著)：運動学習とパフォーマンスー理論から実践へー. 大修館書店. 1994.

【授業方法】

講義

【成績評価】

期末試験 出席状況

【学生へのメッセージ】

この講義は、理学療法士にとって重要な動作分析を行う上で基盤となる知識を整理していきましょう。その為には関連する文献を多く読むことにより、一層知識の幅を広げ、理解を深めて下さい。

臨床運動学

2年次 前期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

正常な姿勢や運動を観察し、運動学的視点から理学療法評価・治療方法を検証する。
運動障害分析能力を養い、仮説検証の過程を学習する。

【授業内容】

- 1・2. 姿勢観察・分析
3. 姿勢の評価
- 4・5 肩甲帯・上肢の観察と分析
- 6・7 骨盤帯・下肢の観察と分析
8. 運動観察 寝返り、起き上がり
- 9・10. 運動観察 立ち上がり、歩行
- 11・12. 運動観察 歩行
13. 異常運動分析 姿勢、立ち上がり、歩行
- 14・15. 異常歩行分析

【教科書】

山崎敦・他（監訳）：オーチスのキネシオロジー

【参考図書】

島田智明・他（監訳）：筋骨格系のキネシオロジー，医歯薬出版

竹井仁・他（監訳）：運動機能障害症候群のマネジメント，医歯薬出版

【授業方法】

講義 実技 演習

【評価方法】

定期試験 課題レポート 出席

【学生へのメッセージ】

基礎運動学の知識から、より臨床的な運動を分析できるよう実習を中心に行いますので、
実技のできる服装（Tシャツ・短パン）を準備して講義に臨んでください。

病理学概論

2年次 前期
1単位 15時間
担当

【授業目標】

疾病の諸原因、病態、および、それらに伴う形態的变化に関する基本的事項を各系統の臓器の主要な疾病と関連させながら講義する。

病理学の基本的用語の定義と用法を正しく理解することを目標とする。

【授業内容】

1. 遺伝と先天異常
2. 代謝異常と変性
3. 循環障害
4. 炎症
5. 感染症と病原微生物
6. 腫瘍
7. 免疫とアレルギー

【教科書】

笹野公伸・他編：シンプル病理学第6版．南江堂．

【参考図書】

Kuman Cotrun Robbins, 森 亘、楠田 理喜 監訳：基礎病理学．廣川書店．

【授業方法】

講義 プリント

【成績評価法】

筆記試験により評価

【学生へのメッセージ】

解剖学、生理学、生化学の講義がすみ、これから各系統・臓器別に疾病の講義が始まろうとしている。それらの病因に関する学問体系がこの病理学（総論）である。各系統・臓器別の疾病の理解を深める上で不可欠の知識であるので、努力して取り組まれない。むづかしい科目と思う人も多いと思うが、平易に解説していく。

内科学 I

2年次 前期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

理学療法士・作業療法士を目指す学生にとって必須である内科学を系統的に学び、将来理学療法・作業療法を行う際に必要となる実践的な知識を習得する。

【授業内容】

1. 総論
2. 循環器
3. 呼吸器
4. 消化器
5. 肝胆膵

【教科書】

講義時に資料を配布する

【参考図書】

医療情報科学研究所 編 「病気がみえる」シリーズ メディックメディア
福井次矢・黒川清 監修 「ハリソン内科学」 メディカル・サイエンス・インターナショナル
大成浄志 「標準理学療法学・作業療法学・内科学」 医学書院

【授業方法】

講義

【成績評価法】

定期試験

【学生へのメッセージ】

患者さんのニーズにそった医学的リハビリテーションを実施するためには、医学の基礎である内科学を勉強することが重要です。一緒に内科学を学んでいけることを楽しみにしています。

整形外科学Ⅰ

2年次 前期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

整形外科学領域の疾患や外傷の基礎的な知識を習得する。

【授業内容】

整形外科的疾患とそれに対する検査、診断、治療法総論を中心に講義する。さらに、部位別疾患各論の一部にも言及する。

【教科書】

標準整形外科学（医学書院）ISBN 978-4-2600-00453-4

【授業方法】

スライド ビデオ その他

【成績評価法】

定期試験（80％）出席（10％）態度（10％）

【学生へのメッセージ】

整形外科学は理学・作業療法にとって非常に重要な分野です。国家試験対策も含め講義をしますので真剣に取り組むように。

理解のためには骨・関節の解剖や機能を習得しておく必要があります。十分に復習し自分のものにしておくように。

神経内科学Ⅰ

2年次 前期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

中枢神経系と末梢神経系に発生する疾患について学習する。これによって、理学療法と作業療法を円滑に実施できる能力を体得する。

【授業内容】

神経系の疾患を病態から理解することに力点をおいて授業を進める。具体的には、解剖学（特に神経解剖学）、生理学、薬理学などの基礎的知識に立って、神経内科学的疾患への理解を深める。

【教科書】

川平和美：標準理学療法・作業療法学「神経内科学」医学書院第4版

【参考図書】

授業の中で適宜、参考文献、参考図書についてふれる。

【授業方法】

教科書に沿って授業を進めるが、参考資料を配布する。授業は、Power Point によって進める。

【成績評価法】

授業態度を最重要視する。特に、授業中の各自の勉学態度を成績評価の中心に置く。これに加えて定期試験（筆記試験）を実施し、総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

神経内科学は、神経解剖学、生理学、薬理学などの基礎的知識がないと体得できません。したがって、毎回の授業に際しては、これらの基礎的な科目の復習が必須になります。つまり、神経内科学だけを「単独で」学習しようとしなくていいことが大切です。また、これは臨床科目に共通のことですが、特に神経内科学では、覚えなないといけないことがたいへん多い。この点をあらかじめ念頭において学習にのぞんで欲しい。

小児科学

2年次 前期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

成長・発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患について理解を深める。

【授業内容】

- 1～2. 小児科学概論、診断と治療概要
- 3～4. 新生児・未熟児
5. 先天異常と遺伝病
- 6～7. 神経・筋・骨系疾患
8. 循環器疾患
9. 呼吸器疾患
10. 感染症
11. 消化器疾患
12. 内分泌・代謝・血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病
13. 腎・泌尿器・生殖器疾患、腫瘍性疾患、心身症、神経症
14. 眼科・耳鼻科疾患
15. 重症心身障害児・者

【教科書】

富田豊 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「小児科学（第4版）」医学書院

【授業方法】

講義 スライド

【成績評価法】

講義終了後試験 出席

【学生へのメッセージ】

小児科学の中から、子どもの養育に必要な一般的な、あるいは理学療法・作業療法分野の活動に必要な知識を伝えたいと思います。現場に出てからも、育児や療育の相談に多少とも貢献できるような内容を目指します。

薬理学概論

2年次 前期
1単位 15時間
担当

【授業目標】

現代の医療において薬物療法は重要な役割を果たしており、患者ケアを提供・実践していく者にとって、薬物が生体成分とどのような相互作用を示し、また生体機能にどのように影響を与えるかを究明する「薬理学」に関する基礎知識を習得することが必要である。本授業科目では、薬理学総論、各論として各種疾患の病態と薬物治療及び医薬品の有効性・安全性などについて講義する。

【授業内容】

1. 総論（薬理学の基礎知識－1）
2. 総論（薬理学の基礎知識－2）
3. 総論（薬理学の基礎知識－3）
4. 医薬品の関連法令など
5. 末梢神経作用薬
6. 中枢神経作用薬
7. 抗ヒスタミン薬、非ステロイド性消炎鎮痛薬、痛風治療薬
8. 心臓血管系作用薬、血液造血系作用薬、その他

【教科書】

鈴木正彦：クイックマスター 新訂版 薬理学，サイオ出版

ISBN 978-4-907176-04-4

【参考図書】

系統看護学講座専門基礎⑤ 疾病のなりたちと回復の促進[2]薬理学，医学書院（東京）

ISBN978-4-260-01814-2

【授業方法】

教科書並びに配布資料を用い、主にパソコンによる PowerPoint にて授業を行う。

【成績評価法】

期末試験（100％）とする。但し、小テスト結果と出席率（90％以上）を考慮することもある。

【学生へのメッセージ】

限られた授業時間数であるため、復習をした上で授業に臨み、知識の確実な習得に努めることを希望する。

画像診断学

2年次 前期

1単位 1.5時間

担当

【授業目標】

各種画像検査の原理、検査方法について理解を深める。代表的な疾患の特徴や病態、重症度と関連づけ、正常画像解剖学と併せて学ぶ。

【授業内容】

1. 各種画像検査概論（レントゲン撮影、CT検査、MRI検査、RI検査を中心に）
2. 画像解剖学及び診断学（脳血管障害、中枢神経疾患を中心に）
3. 国家試験模試（画像診断学に関するもの）及び解説
4. テスト

【教科書】

- ・病気がみえる VOL.7 脳神経 第1版 (株)メディックメディア
- ・学校で使用されている解剖学の教科書を持ってきて下さい。

【参考図書】

脳MRI1, 2 (秀潤社)、脳神経疾患ビジュアルブック (学研)
新臨床X線診断学、X線CTのABC (日本医師会編)

【授業方法】

レジメ スライド ビデオ 臨床フィルム その他

【成績評価法】

出席 テスト

【学生へのメッセージ】

画像は患者の病態を把握する上で重要で、治療計画をたてる上でかかすことができないものです。一緒に画像診断学について理解を深めましょう。

医療統計学

2年次 後期

1単位 15時間

担当

【授業目標】

統計学はデータから始まる科学である。データが指し示す集団の構成や状態を把握するために、まず歴史的事例を知り、理学療法分野における統計学の必要性を理解する。「統計の考え方」を正しく持つためには、データの種類、グラフなどの分布の状態を知る記述統計学を理解し、次いで推測統計学を学ぶ。集団の性質を分析することは、データを統計処理して客観的に検証され、はじめて科学的理論として認められる。例題演習を含み、統計学が理学療法分野の研究に応用できるように努力する。

【授業内容】

1. 統計学の概観と必要性（統計学の歴史的事例・統計処理の必要性・分布とは何か）
2. 変数の測定（測定尺度の種類、評定法による回答、尺度の信頼性、データ処理の必要性）
3. 記述統計学（データ分布、データの種類、分布の代表値、ばらつき、正規分布、他）
4. 相関関係（ピアソンの相関係数、回帰直線、スピアマンの順位相関係数）
5. 推測統計学（検定と推定、統計的仮説検定の考え方、他）
6. パラメトリック統計法（正規検定、t検定、演習）
7. ノンパラメトリック統計法（ χ^2 検定、演習）
8. 演習

【教科書】

多尾清子 著：医療技術者のための統計学。小林印刷出版部。

【参考図書】

石井京子・多尾清子：ナースのための質問紙調査とデータ分析。医学書院。

【授業方法】

講義 演習

【成績評価法】

演習態度 筆記試験（授業の資料全て持込可）

【学生へのメッセージ】

1. 統計学としては講義時間が少なく貴重なので、欠席しないで勉強してください。
2. 統計学は、卒業研究や臨床に出てから研究に必要な学問です。
3. テキスト、プリント、演習プリントは、卒業研究や卒業後に参考になります。

運動学演習Ⅱ

2年次 後期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

本講義では、バイオメカニクスを基盤としてヒトの姿勢・動作を観察し、分析する能力を習得することを目標とします。バイオメカニクスは、体を構成する素材、組織・器官などの構造と機能、体の各部位あるいは全体の力学的仕組みに関する学問です。演習を通じ、身体運動に関わる骨や腱・靭帯などの筋骨格系組織の働きについて力学の立場から学びます。また、姿勢・動作の身体制御について神経学的見地からも考察を行います。

【授業内容】

- 1回 運動機能検査機器の原理と意義、重心動揺計
- 2回 床反力計
- 3回 3次元動作解析装置、筋電計
- 4～7回 データ取り 3次元動作解析装置・床反力計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析
- 8～9回 発表
- 10～13回 データ取り 3次元動作解析装置・床反力計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析
- 14～15回 発表

【教科書】

なし

【参考図書】

内山 靖・他（編）：計測法入門 計り方、計る意味. 協同医書出版社.
江原義弘, 山本澄子著：ボディダイナミクス入門 立ち上がり動作の分析. 医歯薬出版.
中村隆一編著, 齋藤宏, 長崎浩著：臨床運動学 第3版. 医歯薬出版株式会社.

【授業方法】

講義 演習（グループワーク）

【成績評価】

期末試験 出席状況 発表・レポート

【学生へのメッセージ】

運動力学を基礎とした姿勢・動作の分析を、グループ中心に演習を行います。理学療法評価で大きな意味を持つ動作観察・分析過程を習得する授業なので、不明な点はその場で解決していくようにして下さい。

内科学Ⅱ

2年次 後期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

理学療法士・作業療法士を目指す学生にとって必須である内科学を系統的に学び、将来理学療法・作業療法を行う際に必要となる実践的な知識を習得する。

【授業内容】

1. 血液
2. 内分泌・代謝
3. 腎臓・泌尿器
4. 免疫・エネルギー
5. 感染症
6. その他

【教科書】

講義時に資料を配布する

【参考図書】

医療情報科学研究所 編 「病気がみえる」シリーズ メディックメディア
福井次矢・黒川清 監修 「ハリソン内科学」 メディカル・サイエンス・インターナショナル
大成浄志 「標準理学療法学・作業療法学・内科学」 医学書院

【授業方法】

講義

【成績評価法】

定期試験

【学生へのメッセージ】

患者さんのニーズにそった医学的リハビリテーションを実施するためには、医学の基礎である内科学を勉強することが重要です。一緒に内科学を学んでいけることを楽しみにしています。

整形外科学Ⅱ

2年次 後期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

整形外科学領域の疾患や外傷の臨床的な知識を習得する。

【授業内容】

整形外科的疾病を部位別に、さらに実際の臨床にそくした知識が得られるように講義する。

【教科書】

標準整形外科学（医学書院）ISBN 978-4-260-00453-4

【授業方式】

スライド ビデオ 等

【成績評価法】

定期試験（80％）出席（10％）修行態度（10％）

【学生へのメッセージ】

整形外科学は理学・作業療法にとって非常に重要な分野です。国家試験対策も含め講義をしますので真剣に取り組むように。

整形外科1で得た骨・関節疾患の特殊性を習得、理解しておくように。

神経内科学Ⅱ

2年次 後期
1単位 30時間
担当

【授業目標】

中枢神経系と末梢神経系に発生する疾患について学習する。これによって理学療法と作業療法を円滑に実施できる能力を体得する。

【授業内容】

神経系の疾患を病態から理解することに力点をおいて授業を進める。具体的には、解剖学（特に神経解剖学）、生理学、薬理学などの基礎的知識に立って、神経内科学的疾患への理解を深める。

【教科書】

川平和美：標準理学療法・作業療法学「神経内科学」医学書院第4版

【参考図書】

授業の中で適宜、参考文献、参考図書についてふれる。

【授業方式】

教科書に沿って授業を進めるが、参考資料を配布する。授業は、Power Point によって進める。

【成績評価法】

授業態度を最重要視する。特に、授業中の各自の勉学態度を成績評価の中心に置く。これに加えて前期、後期ごとに筆記試験を実施し、総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

神経内科学は、神経解剖学、生理学、薬理学などの基礎的知識がないと体得できません。したがって、毎回の授業に際しては、これらの基礎的な科目の復習が必須になります。つまり、神経内科学だけを「単独で」学習しようとしなくていいことが大切です。また、これは臨床科目に共通のことですが、特に神経内科学では、覚えなないといけないことがたいへん多い。この点をあらかじめ念頭において学習にのぞんで欲しい。

保健医療福祉制度論

3年次 後期

1単位 30時間

担当

【授業目標】

地域で安心して暮らし続けるためには、各制度・施策が住民のところで統合かつ有効に機能していることである。保健・医療・福祉の各制度がどのようにシステム化され、地域包括ケアの実をあげられるか検討し、その認識を深めるとともに、主な外国の例を参考に加えたい。

【授業内容】

1. 日本の社会保障制度の体系とその特徴
2. 人権と健康の概念・人間の存在
3. 地域福祉と地域包括ケア
4. 医療保健福祉の統合
5. 諸外国の実例

【教科書】

使用しない

【参考図書】

適宜、プリント等資料配布

【授業方法】

講義

【成績評価法】

レポート

【学生へのメッセージ】

各人が「具体的にケアを必要としている人」のイメージをしっかりとって、その人の自立を支えるために、保健・医療・福祉がどのように機能すればいいか…という視座を定めて授業にのぞんでほしい。